

ドーク それは、今まで聞いたうちの、最悪の知らせです。

ウーセ さやう、實に頼もしからん不吉な知らせです！

熱 王の全軍はどのくらゐです？

ワアノ 三萬人です。

熱 四萬人にしてくれ。家父とグレンダワーが二人ともゐないのだから、吾

の部下だけで此大決戦をやつてのけるんだ。さ、大急ぎで閱兵をしよう、最後の審判は直だ。みんな死ぬんだ、陽氣に死ぬんだ。

ドーク 死ぬなんぞとお言ひなさるな。自分は此半ケ年は死をも死の手をも恐れ

る必要はない。

入る。

第二場 ウァーキックシャー州。コエントリー市附近の公道。

フォールスタッフ半鎧にてバードルフと共に出る。

フォール バードルフ、汝はコエントリーへ先へ往け。酒を一壘だけ盛めさしとけ。

(と壘を渡して) 部下の奴らはすんく進軍させるから、今夜中にサトン・コー

フィルまでは行かれるだらう。

バード 隊長、金を下さい、代を。

フォール (わざと惚け) あゝ、たんと使へ。

バード 此壘ちや十志だらう。

フォール (尙聞きちがへた風をして) ちや、それを骨折賃にしな。百志になつても、みんな取つとけ。鑄直しの責任はおれが負ふから。副隊長のビートーに、町

の棒端へ迎ひに來いといつてくれ。

バード

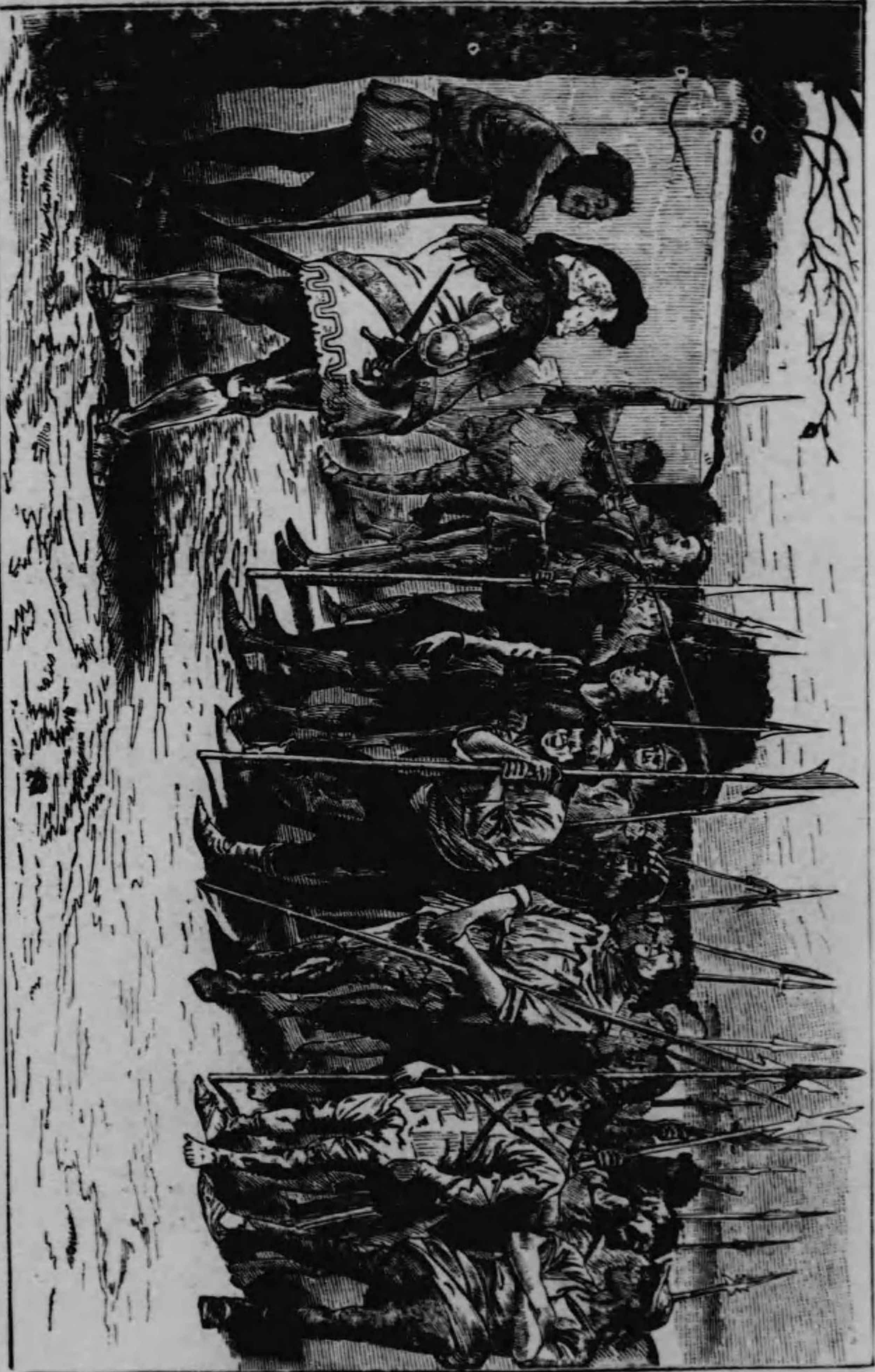
(不承々々) 承知しました。 さよなら。

入る。

フォールスタッフ只獨り残り、下手に大勢の部下が控へてゐるといふ思入にて指ざしをして、俄に高笑ひをして、

フォール

あんな襦袢兵隊共を率れてるのを恥かしいと思はねえやうなら、おれは鹽漬の火魚だ。おれは、王から預つた兵士募集権をおそろしく濫用してくれた。百五十人の兵隊を募る代りに、三百ポンド以上で金を手に入れてくれた。立派な屋敷持ばかり徴發してくれた、郷士連の息子ばかりを。婚約の有りさうな獨身者で、もう二度も其宣言をして、「御異議は有りませんか」を行らかしたやうなのへ申し込んだ。つまり、陣太鼓の音を聞く位なら悪魔の聲を聞かうていふ懦弱者ばかりへ、一度やられたとのある雁



鴨以上かみいじやうに銃てつぱうの音おとを怖こはる奴やつらばかりへ申し込こんだんだ。つまり、針はりの頭あたま以上いじやうの膽ぢやう玉たま持も合あはせてゐねえやうな柔にや弱やわ漢らんばかりへ徴ちやう發はつを命めいじたんだ。で、どいつもこいつも身み代しろ金きんを出だしやアがつた。ところで、おれの部下ぶかは、旗き手ても、伍ご長ちやうも、中ちゆう尉ゐも、卒そつも、みんな、食くひしんぼうの、飼かひ犬いぬに瘡かさぶたを嘗なめられてるあの壁かべ代しろのラザラスよろしくといふ檻ほろ樓ろ野や郎らうばかりだ。其次そのつぎはてんで兵へい隊たいなんかになりッこのねえ野や郎らう共どもだ。手て癖くせがわるくて、追おひ出だされた雇やと人びんだの、二に男なん坊ぼうや、三さん男なん坊ぼうの二に男なん、三さん男なんだの、謀わ叛はんした酒さか席みせの番ばん頭とうだの、失しく策じやく通とほしの馬ば丁ていだの、太たい平へいの世よの穀こく潰つぶしの遊あそ逸び漢らんだの、使つかひふるしの軍ぐん旗きよりも十じゅう倍ばいも見みッともない薄うすぎたない奴やつらばかりだ。おれは、さういふ奴やつらを、免めん役やく料りやうを出だした奴やつらの埋うめ合あせに雇やとひ入れた。お前まへらが見みたら、此この百ひゃく五十ご人にんの檻ほろ樓ろくそは、ついで此この間ままでは豚ぶた飼かひをしてゐて、糟かすや殻からを食くつてゐた放はな蕩たう息そく子すこの零ち落れかとも思おもふだらう。此この間まも戯あそびた野や郎らうめが、途と中ちゆう

で斯かう言いやアがつた、絞かう罪ざい臺たいから死しんだ罪ざい人にんを取りおろして來きなすつたの  
かと。こんな大おほ勢せいの案あん山さん子しを見みたものはあるめえ。彼あいつ奴やつらを伴たづねてコ  
エントリエントリの街まちが通とほられたもんかい！ 解わかり切きつたことだ！ それに、彼あ  
奴やつら、股また廣ひろげて歩あるきやアがる、足あし枷かせを嵌はめられてる積つみりで。其その筈はずだ、大たい抵てい  
牢らうから出でたばかりの奴やつだ。おれの部ぶ下か全ぜん體たいで、襦じゆ袢たんはたッた一枚まい半はんだ。  
半はんの方ほうは二まい枚まいの手て拭ぬぐを一つひとつに繋つないで、肩かたから引ひ掛かけたのだ、使つかひ番ばんが着きる  
袖そで無なして格かくだ。一枚まいの方ほうは、實じつは、ちよろまかして來きたのだ、セセント・オオル  
バンの宿やど屋やからだけか、ダエントリの赤あか鼻はなの許とこからだけか。だが、  
そんな事ことアどうでも可いいや。今いまに、垣かき根ねに幾いくらも干ほしてあるから、めいめ  
いにどうかするだらう。  
王子おうじハリーとウエストモアランドと出でる。  
王子おうじ、どうしたい、麥ビール酒た樽せんせい先生せい！ え、おい、大おほ蒲や團どん！

フォル おや、ハル公！ どうしたい、狐輕者。 ウォアキックシャーで何をしてるんだ？……（はじめてウエストモーランドを見て）お、これは、どうも、ウエストモーランド閣下。 閣下はもう夙に、シユリユーニペリーへ御出張かと存じてをりましたに。

ウエス さ、いかにも既う夙に往つておべき筈であつた。 足下とてもだ。 わしの部下の者は既う已に往つてゐる。 王は頻りにお待兼である。 今夜中には是非みんな往かんけりやならんよ。

フォル 大丈夫！ 御心配御無用です。 乳酪を盗むどら猫以上に緊張してゐますから。

王子 成程、乳酪を盗みさうだよ、今からもう脂肪で塊つてるからね……だが、ジャック、（と下手を指さして）あの後からやつて来るのは、誰の部下だい？

フォル おれのだよ。

王子 （笑ひ出して）何て、ま、情けない、見すばらしい奴らだい！

フォル 何のそんなことがあるもんか！ 芋刺しの材料にや澤山だ。 銃砲の食料だよ、銃砲の。 穴埋にするにや奴らで十分だ。 ヘッ！ 所謂死すべき人間なんだ。 死すべき人間なんだ。

ウエス だが、いかにもどうも非常に貧乏さうで、見すばらしくって、まるで乞食のやうだね。

フォル さ、その貧乏は、どこから持つて來ましたか知りませんが、見すばらしいのは、誓つて、手前とは無關係です。

王子 成程、無關係だらうよ。 肋の上の肉の厚みが指三本がたといふのは、決して見すばらしいはうぢやないからねえ……時に、大急ぎだよ。 さア〜。

フォル パーシーはもう出陣してゐる。  
え、王も既う御出陣なすつたんですか？

ウエス 然、出陣された。もう大分おくれたやうだ。  
フォル むむ。……

王子はじめ皆々入る。フォルスタッフだけ少しおくれて入る。  
戰場へは終了へた時分に、宴會へは始まる頃にと、それが相場だ、軍嫌ひの食ひしんぼうには。

入る。

第三場 シュリュースペリー附近の叛軍の陣營。

喇叭、太鼓。熱拍車、ウーセスター、ドーグラス及びヴァノンら甲冑に出て出る。

熱 今夜戦ひませう奴と。

ウーセ さうはいかない。

ドーグ ちや、敵に利を興へるのですか？

ヴァノ いゝえ、決して。

熱 何故そんなことをいふのです？ 奴は後陣の来るのを待つてる所ぢやないか？

いかり。

ヴァノ われくともさうです。

熱 奴のは慥かに来る。こつちのは曖昧です。

ウーセ 甥御、ま、わたしたちの意見に従つて、ま、今夜はお止めなさい。

ヴァノ 今夜はおとまりなさるが可い。

ドーグ 兩君の御意見は當を得てゐません。恐怖心に原因してゐるんだから。

ヴァノ (嚴然して) ドーグラス、無禮なことをおつしやるな。手前は、誓つて、此一

命を賭して、當然の名譽の爲にならば、敢て戦ふことを厭ひません。自分  
分は未だ曾て臆した覚えはない。貴下なり、だれなり、現存の如何なる蘇  
蘭人にも、其點に於ては、一步も譲りません。明日の戦場で、貴下と自分  
と、どつちが臆するか、試すことにしませう。

ドーグ よし。今夜でも可い。

ヴァノ よろしい。

熱 今夜になさい。

ヴァノ これさく、そりや不可ませんよ。ま、どうして貴下がたのやうな老功な  
將軍たちが、今こゝで輕卒な事をしては、どんな不利と招くか解らんと  
いふことにお氣が附きません、不思議の至りです。わたしの從弟のヴァノ  
ンのひきわてゐる騎兵隊もまだ參着してゐません。伯父御さんのウーセ  
スター卿の騎兵とても、つい今日着いたばかりですから、其長途の疲れで、

勇氣が萎えてゐて、いづれも平素の半分の半分ぐらゐに元氣が衰へて、眠  
つたやうになつてゐます。

熱 敵の騎兵だつて然うだ、概して旅疲れで、勇氣が沮喪してゐる。我軍の主

要部は、もう十分休息してゐる。

ウーセ 王の軍は、第一、數の上で、我軍に勝つてゐる。ねえ、甥御、ま、みんなが來

るまでお待ちなさいよ。

所謂陣頭談判の始まるのを知らせる喇叭が聞えて來る。

士爵ウォルター・プラントがヘンリー四世王の使節の資格で出る。

フラン 自分は王の優渥なる使命を齎して參りましたが、敬意を表してお聴取下さ  
るならば、申し述べませう。

熱 ようおいでなされた、士爵ウォルター・プラント。貴下が我黨の同志であ  
つたならばと、残念に思ひます！ 我黨の中には、足下を深く愛してゐる

者もあるが、其者と雖も、足下が立派な器量、名聲を備へながら、我黨とは志を一にせずして、敵對の態度を取られてゐるのを遺憾に思つてゐます。神よ、願はくは、自分をして其同じ態度を取らしめたまへ、貴下たちが、當然の君王たる人に對して、不法不軌の態度をお取りなさる以上は。……が、まづ君命を。……王は貴下がたの不平の理由を聞かうとして、自分を遣されたのです、何故に貴下がたは、海内平靜の際に、強ひて恭順の民に殘虐を教へんとするものゝ如くに、かやうな大膽な反抗を試みられるのであるか？ 若し王に於て諸君の功勞を……それは多種多様だと王は申してをられる……其功勞を假にも忘却せられたやうなことがあるならば、それを申されたい、速かに其希望を、利子を添へて、満足せしめられると同時に、一切罪を問はれないであらう、諸君及び諸君の教唆によつて心得ちがひをした人々の罪を。

フラン

熱

王は深切です。われは善く知つてゐます、王は何時約束をして、何時それを履行すべきかを知つてゐる人です。今王が領有してをられる王權は、父と伯父と自分とが獻じたものです。すなはち彼仁がやつと二十六ぐらゐで、まだ世人にも輕んぜられ、情けない卑い身分で、だれにも目を掛けて貰ふことも出来ない追放人の資格で、こそく入國せられた時に、家が海岸まで出迎へて、彼仁が「わしは只ランカスター公たるの相續權が譲り受けたく、又リチャード王と和解がしたい、そればかりで來たのである、決して他に野心はない」と涙を流して忠誠を誓約されるのを聞いて、父は深切な心から氣の毒に思つて、必ず後援しようとして、其通りに履行したのです。すると、國中の公卿、貴族は、父ノオサンバランドの彼仁を助けるのを見て、大小ともに帽を投じ、膝を折つて、競つて、町や市や村やで、彼仁に隨從し、橋では其渡るのを待ち、徑では列を作り、方物を持つて

来る、誓約を述べ立てる、嫡男をも小姓に差出す、如何にも嬉しさうに彼仁の踵に附着いて歩く、といふ有様でした。忽ちにして彼仁は、自分の権力を意識するにつれて、身分のまだ卑かつた時分に、レーヴンスバアの荒磯で、わたしの父と誓約したよりも以上に手を伸して、今現に、法例の改正者を以て自ら任じ、云々の嚴令は國民の堪へ得ざる所だの、斯くく積弊があるのと呼號して、いかにも國の爲に泣いてゐるらしく見せかけてゐる。さうしてそれを表面に、正義然たる面構へで人心を收攬し、更に進んで、故王が愛蘭親征の不在中代理として殘しておかれた寵臣共を悉く首切つちまつたのです。

フラン

(長話に根を切らして) ちよッ! 自分はそんなお話を承はりに來たのぢやありません。

熱

ぢや、要點をいひませう。其後幾ばくもなく、彼れは故王を廢黜して、そ

れから又直に其命までも奪つてしまつた。さうしてそれと殆ど接踵して全國に課税し、剩へ、其近親のマーチ伯を、若しも各權利者が毎に其權利を領有すべきであるなら、彼れの王となるべきマーチ伯を、ウェールズに人質たらしめて、それを償還しようとしなさい。のみならず、幸ひに戦勝を得たわたしを侮辱し、間諜を放つて陥れようとした。わたしの伯父は罵倒されて議會を退き、父もまた、彼れの激怒に觸れて、朝廷から追はれた。彼れは相次いで盟約を破り、不正の上に不正を行ひ、とゞのつまり、吾々をして、止むなく自衛の爲に兵を擧げしめ、此儘長く王たらしむべきか否か、果して彼れにさる權利ありや否やを決せしめようとするに至つたのです。其お言葉通りを復命いたしますか?

フラン

熱

いや、さうぢやありません。暫時あちらで協議します。貴下は一旦お歸り下さい。明早朝、伯父が此方の意志を齎して参りませうから、安全に歸



り得る保證の人質を送られるやう、王に傳へて下さい。ちや、さやうな

ブラシ

どうか王の優渥な御旨意を御受納あるやうにいたしたい。

熱

は、多分。

ブラシ

どうか然うなさるやうに。

入る。

第四場

ヨオク。

大監督の邸。

ヨオクの大監督リチャード・ド・スクローブと其同志の士爵マイケイルと出る。

大監

士爵マイケイルさん、どうぞ急いで往つて此(一書状を出して)封書を式部官のモウブレイ卿に渡して下さい。(又一書を出して)これは甥のスクローブに(尙別の書状をも渡して)其他も總てそれらの届け先へ。重要な通信たることが解れば、急いで下さるだらう。

マイケ

それは略推察いたしてをります。

大監

多分お察しであらう。



マイケイルさん、明朝は一萬人の生死浮沈が試験される日です。と言ふのは、シユリユースペリーで確聞した所によると、王が急に徴集された大軍を以てして、あそこでハリー卿と會戦される筈である。ところで、マイケイルさん、わたしは甚だ心懸りだ、ノオサンバ

ランド伯が病氣の爲に、伯の一軍は最も大多数であつたのに、それが來會しないといふ事、及び同じく中堅とも見做されてゐたオーエン・グレンダワ一の一隊が、豫言に累はされて、一しよにならなうといふこと、此二ヶ條のために、パーシー方は今直に王軍と雌雄を決するには力が足らなからうと心配する。

マイケ

何の、それ御心配にや及びませんよ。ドーグラスがをられ、又モオチマ一卿がをられますから。

大監

いゝや、モオチマ一はをられん。

マイケ

でもモオデークどのだの、ヴァノンどのだの、ハーリー・パーシーどのだのがをられます。又ウーセスター卿がをられます。それから勇敢な武邊者や立派な士分者達の一軍がゐます。

大監

いかにも。けれども王は特令して全國の勇兵を徵集せられたのだ、ウエー

ルス公をはじめランカスター卿ジョンだの、ウエストモーアランド伯だの、勇敢なブランドだの、其他それらと同格の武將で、重望を荷つてゐる者が大勢ゐる。

マイケ

大丈夫です、きつと五角の働きをしますでせう。

大監

わたしもさうは思ふが、油断は出來ない。最悪の結果を避けるために、急いで往つて下さい。萬一にもパーシー卿が敗けるやうだと、王は、其兵を解散しないうちに、こゝへやつて來るに相違ない、われゝの陰謀は王の耳に入つてゐるのだから。で、豫め防禦の準備をしておかねばならん。だから、急いで下さい。まだ他の同志へも書面を認めんけりやならん。ちや、マイケイルさん、御機嫌よう。

入る。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

第五幕

第一場 シュリユースベリー附近の王の陣營。

王、王子ウエーリス、公ハリー、其弟ランカスター卿ジョン、士爵ウォルター・プラント及びフォールスタップら、いづれも甲冑にて出る。兵士、侍者、旗持等つゞく。

王

太陽が、まるで血のやうな色をして、向うの杜のある小山から覗きはじめて！ 太陽が不加減らしいので、晝の顔色がわるい。

王子

南風が太陽の意志を報告する喇叭手の役廻りをして、木の葉を低く吹鳴らして荒模様を豫告してゐます。

王

ちや、それは今日の敗者に對する同情と見るが可い、勝者に取つては、天地間に、一の忌むべきものもない。……

この少し前から喇叭の音が聞えはじめ、此時ウエーリスとヴァノンとが、パーシー方の使者の資格で出る。

や、暫く、ウエーリス卿！ あんたとわたしが如是具合にして會合するのは、望ましくないことです。信任に畔きなすつたればこそ、據るなく着心のよい平和の服を脱いで、此老體をぎぢぢない甲冑で痛めねばならんことになつた。これは實に望ましくないことだ。實に望ましくないことだ。あんたは如何思ひます？ 此おそろしい兵亂の粗暴な葛藤を、もと通りに、解除す氣はありませんか？ 以前は柔順な星座に坐つて、綺麗な、

ウーセ

自然な光りを放つてゐたあんだだ、將來の禍亂を前兆する所の奇怪な突然の光り物ではなかつたのだ。以前の星座へ復る氣はありませんか？  
御前、まア、お聴き下さい。手前一個としては、平穩に晩年を送ることを寧ろ望みまする。此不和合を招きましたのは、決して手前ではございませんから。

王

あんたが招いたのぢやない！ ぢや、どうして斯うなつたのです？

フオル

(横合から口を出して) 謀叛が落こちてゐたのを一寸拾つたらう。

王子

叱！ 鴉めが！ 叱！

ウーセ

(王に) 失禮ながら、手前や手前の一門の者を疎外なすつたのは、陛下御自身であつたのです。御前、改めて申しますが、手前共は、あなたのお身方中の尤なる者であつたのです。貴下の爲に、手前は、リチャード王の時代に、職務の杖を折りました、夜を日に繼いで急行して、貴下をお迎へして、お手

をキッスしました、貴下が位置も資力もまだ手前の程度にさへもおなりになつてゐなかつた時分に。手前と手前の兄と兄の倅とが貴下をお迎へして、大膽にも輿論を冒して、御後援をしました。貴下はわたくし共に誓約をなすつた。さうして、特にドンカスターで、國家に對しては何等の野心もあるのではないといふ誓約をなすつた。只新たに手に入つたランカスターの公領ガントだけを保有したいとおつしやつた。それに對してわたくし共は御後援を誓ひました。然るに、幾ばくもなくして、好運が貴下の頭上に雨と降つた、榮譽や権力が洪水の如く貴下の手中へ流れ込んだ。それは、一はわたくし共の力であり、一は故王が不在であつた爲であり、一は故王があんまり放逸であつたので、貴下が如何にも不當な取扱ひでも受けてをられたらしく見えた爲でもあり、もう一つは風都合がわるくて、故王が不幸な愛蘭征討から歸つて來ることが出來ず、英國の者が、彼れを死

んでしまはれたものと考へたが爲でもあつたのです。すなはち此等好都合の事象が群り生じたので、あなたが全權を握りなされる機會が、俄に近寄つたのでした。で、ドンカスターでの吾々への盟約を忘れちまつて、吾々に育てられなすつた身でありながら、貴下は吾々を、例の不仁な雛が……あの郭公の子が……雀を遇するが如くに、遇しなすつた。……吾々の巢を横領して、吾々の庇で、おそろしく大きくおなんなすつた、愛してゐる吾々すら一呑にされさうなので、間近へは近寄りかねる程に。で、吾々は據ろなく、身の安全のために、速かに貴下の身邊から飛び離れて、かやうな一舉に及んだのです。すなはち、吾々の此舉は、譬へば、貴下がた自身に製造なすつた兇器の作用だと申して當然です、貴下の不深切な待遇や傲慢な威嚇や入國當時の盟約に背きなすつたことなぞが原因なのでござい

王

實際、さういふ事を一々箇條書にして、足下らは市場の十字架に貼附したり、教會堂で読み上げさせたりして、定節のない奴らや貧乏な不平黨共の目を悦ばすに足る縁飾を謀叛の外套へ添へなすつた。奴らはごつた返す革命沙汰さへ聞けば、口を開けっぱなしにして腕を扼するのが定例だ。古來、どんな暴動でも、相應に其理由を粉飾する顔料を缺かなかつたものだ。又、めつちや騒ぎを待焦れてゐる食ひはぐれの不平黨の種も盡きないものである。

王子

貴下たちの軍隊中には、いよ／＼決戦となつたら、此一戦のために、随分多數に貴い犠牲となられる人たちがありません。貴下の甥さんに傳へて下さい、ウエールズの公爵は、ヘンリー・バーシーを激賞することに於ては、全天下と同感である。我將來を誓ひに掛けて申すが、(此度の一舉だけは別として)彼れは全く立派な豪傑である、大膽不敵である、敏捷にして勇敢

彼れの如く、勇敢にして年少、彼れの如く、其壯舉以て末世を飾る、彼れの如きは、決して二人とは生存してゐない。自分は、恥しいのだが、今まで武士道を怠つてゐた、さうして彼れも然うわたしを評してゐると聞いてゐる。けれども（と父王に對ひて）只今、父陛下のお前で誓言しますが：彼れが如何やうに其盛譽や大名を利器として自分を壓倒し來るとも敢て闘せず、自分は、多く雙方の血を流さしめざらんために、彼れとの一騎打によつて、運命を決したいと希望します。

王

ウエールズの公爵、敢てそれを許可することにしませう、止めたいと思ふ仔細も種々あるのだが。……（ウーセスターに）いや、われらは最も民衆を愛するのである。心得ちがひで甥御の一味となつてゐる者と雖も、同じやうに愛してゐる。で、彼等が此方の申し出でを承諾するやうならば、彼れも彼等も足下も、いや、あらゆる者が、再び予の親友となり、予は彼等の親友と

なるわけだ。甥御に然ういつて、更めて返辭を聞かせて下さい。だが、若し従はんとあれば、膺懲の手は吾等の命を俟つてゐて、直にも其職務を行ふことになるであらう。さ、お歸りなさい。此方は、其答が如何あらうと、意に介しない。正當なことを提議するのである。よく考へて返答をなさい。

ウーセスターとヴァノンと入る。

王子

（王に）承諾はしますまい、きつと。ドーグラスと熱拍車とが二人一しよになつてゐる以上、全世界を敵にしても、敗けない積りでゐませう。

王

さ、それだから、將校連は、おのゝ直に、其部署に就くが好い。返辭次第で、たゞちに攻勢を取ることにするから。……神よ、我正義の軍に利あらしめよへ！

王子とフォールスタッフだけ残り、他は悉く入る。

フォル

(續いて行かうとする王子の肩を叩いて) ハル公、若し俺が戦場でぶつ倒れたら、其上へ跨つて、防いでくれるだらうな。友達甲斐になア。

王子

お前の上へ跨る？ そいつア巨大人でなくちやア出来ない友情だ。お祈りをして暇乞をしときな、今の中に。

フォル

これが寝る時で、何事もない時だと好いがなア、ハル公。だって、命は神から借りてるのだけ。

王子

まだ期限ぢやないや。期限内に拂ふのはいやだ。……

フォル

王子は聞流して入る。

催促も受けないのに、急いで拂ふにや及ばねえ。……む、かまふもんか！ 名譽の爲だ。さうだ、名譽の爲だ。だが、若し名譽めが、いざて時分に、とんでもない怪我をさせやがったら、どうしよう？ さうしたら、どうする？ 亡くした脚を名譽が舊通りにしてくれるかい？ うんにや。或は

腕を？ うんにや。或は手傷の痛みを取つてくれるかい？ うんにや。

ぢや、名譽は外科の名人ぢやないのかい？ 無い。ぢやア、何だい名譽てのは？ 言葉だ。言葉てのは何だい？ 風だ。差引、上等なお勘定だ！ 誰

か、名譽を手に入れたかい？ 水曜日死んだあの男かな？ 奴、今、名譽

を感じてるかな？ うんにや。奴、名譽の音でも聞いているかな？ うんに

や。ぢや、感じないものかな？ 死んぢまつちや。だが、生きてる者にア

名譽も生きてるかな？

うんにや。なせ？

世間の誹謗てものが生

かしちやおかないや。

それだから俺、名譽な

んか欲しくない。名



譽は、ほんの墓石の紋章だ。……まづ、これで、おれのお宗旨問答は最終結入る。

第二場 叛軍の陣營。

ウーセスター伯と十爵リチャード・ヴァノンと出る。

ウーセ

あゝ、いや、リチャード君、王が斯ういふ寛大な深切な提議をしたといふことは、甥に知らせちやなりませんぞ。

ヴァノ

いゝや、お知らせしたはうが當然です。

ウーセ

知らせりやア、我黨の破滅です。到底、王が吾々を愛するなんて約束を守

る筈はありません、あるまじきことです。王は絶えず吾々を疑つてゐて、早晚、他の越度を見附けて、此度の犯罪を罰するに相違ありません。百眼怪の如き猜疑が終生吾黨を監視するでせう。蓋し謀叛した者は、信任されたとして、狐並に飼はれてゐるんです。狐はどんなに馴れても、どんなに可愛がられて閉込まれてゐても、遺傳の野性を脱せないものと思はれてゐる。吾々がどんな顔をしてゐようと、鬱いでゐようと、浮かれてゐようと、わるくばかり解釋されませう。で、つまり、食料に飼はれてゐる牡牛同様、ちやほやされるほど、死期が近いと思はねばならん。甥の不埒は或は忘れられるでもあらう。若げの餘りとも血氣の所爲とも辯解が立つ。疝癖の強い、短慮な、名にし負ふ熱拍車だと言つてもものけられる。彼れの罪科は、わたしや彼れの父の責任になる。彼れを教へたのは吾々だ、彼れの悪事は悉く吾々からの傳染だとなる。で一切の源泉たる吾々が、一切の



支拂しはらひをすることになる。だから、ハーリーには、決して王わうの此提議このていぎを知らせて下くださるな。

ワアノ  
では、お考かんがへ通りをお傳つたへなさい。其通りそのとはですと言いひませう。……あそこへ甥御をりごが見みえました。

熱拍車ねつぱくしゃとドーグラスと出る。武士ら、旗持はたきもちらも出る。

熱  
伯父おやぢが歸かへつて來た。(武士らに)ウエストモリアランド卿きやうを敵陣てきじんへ引渡ひきわたせ。……伯父おやぢさん、どうでした?

ウーセ  
王わうは直すくに開戦かいせんしようといつてゐる。

ドーグ  
ウエストモリアランド卿きやうに言傳ことづてして、應戰おうせんの返答へんたふをなさい。

熱  
ドーグラス卿きやう、あんた往いつて、さう傳つたへて下ください。

ドーグ  
よろしい、さういひませう、望のぞむ所ところです。

ドーグラス入る。

ウーセ  
情なさけ容赦ようしやもないといふのは王わうのことだ。

熱  
よもや情なさけや容赦ようしやを乞こやしますまいね!!

ウーセ  
予わしは、彼かれの誓約せいやく違背ちがいに對たいする我黨わがたうの不平ふへいや不ふ満まんを徐しゆかに演說えんせつしたところが、彼かれは其辯解そのべんかいに、そんな誓言せいごんは曾かつてした覺おぼえはない、と更に又また不誠實ふせいじつの誓言せいごんをした。彼かれは吾々われらに叛逆人はんぎやくじんの醜名しうめいを與あたへて、傲然かうぜん兵力へいりきを以もつて膺懲ようちやうしようとしてゐる。

ドーグラス又出る。

ドーグ  
さ、諸君しよくん、出陣しゆつせん! 出陣しゆつせん! 只今ただいま、王わうヘンリーの面上めんじやうへ挑戰てうせんの豪語かうごを叩たたきつ

ウーセ  
けて來た。人質ひとじちのウエストモリアランドがそれを持つて行いつた。此上このうへは、もうすぐ攻寄せめよせて來るに相違さうちない。

ウーセ  
先刻せんこくウエールスの公爵こうしやくが、王わうの前まへへ進すすみ出いでて、是非せひ足下あしもとと一騎打いちきうちをしたいと主張しゆちやうしてゐたよ。

熱

お、どうか此戦争を専らわたしとあのハーリー・マンマスと只二人の勝敗で決定されるやうにして、けふの戦ひに他人は決して與らないことにして貰ひたい！ え、如何なでした、奴が其挑戦を主張した時の口吻は？

ワアノ

いゝえ、決して。自分は、未だ曾てあんな謙虚な挑戦の申し出でを聞いたことはありません、肉親の同胞同士が、演習のために、武術の試合を申し込む場合でない以上。彼れは貴下にあらゆる敬意を表し、王子らしい優美な言葉で貴下を賞めて、まるで史家の筆を以てする如くに貴下の長所を算へ、貴下は到底賞め盡されない、實際の価値と比べると賞辭は常に劣るからとまで言はれました。それから、それがまた實に王子らしい態度でしたが、顔を赧くして、自分は慚慚者であつた、と自ら教へ、自ら學ぶ二重の能力を具へてゐる人の如くに、巧妙に自分を責められました、口を緘まされま

熱

したが、萬一あの王子が今日の厄運を免れるやうだと、自分は公言します、英國王の將來は、前例のない程度に頼もしく思はれませう、從來は放蕩者だとばかり誤解されてゐた人ですが。

ヴァノン君、足下は大分あの阿呆殿に惚れてるやうだね。わたしやあんな放逸無頼な王子てのは聞いたこともない。だが、奴は實際どうあらうとも、夜にならんうちに、わたしが武士の鐵腕で抱擁の禮を行ふ段となりや、奴は辟易しつちまふだらう。……さ、すぐに陣出陣！ 親友諸君、同志諸君、勇士諸君、諸君自身で如何するが好いかを考へて下さい、わたしは訥辯だから、演説で以て諸君の血を活動せしめることは出来ない。……

使者出る。

使者

御前、貴下への御書面です。

熱

今讀んぢやをられない。……お、諸君、人の一生は短い！ 其短い一生と

雖も、之を卑劣に過したなら、長過ぎるでせう、假令一生が、時計の針の尖に乗かつてゐて、一時間が来ると終局になるものであるとしても。生きてゐるなら、王でも何でも踏倒すが可し、死ぬなら、立派に死なう、王侯連と枕を並べて！ 我々の目的が正義である以上、吾々は武器を揮ふに當つて聊かも疚しい所はないのです……

乙の使者出る。

乙使

御用意なさいまし。敵軍がもう攻寄せます。

熱

演説の邪魔をされて、却つて有りがたい、わたしは喋舌るのは不得手だから……只これだけ言つておく……めい／＼最善をお盡しなさい。(と言ひつゝ、劍を抜いて)こゝに抜放す此劍刃に、成敗未定の今日の一戦に於て、わたしが出會する最善の血を廻らうと思ふ。「好望」！「バーシー」！さ、進軍なさい。……おい、あらゆる樂器を高々と吹奏しろ。其軍樂につれて、お

互ひに抱合ひませう、吾々の或者は、もう決して、二度と斯ういふ禮をしな  
いことになるかも知れんから。

喇叭を吹鳴らす。一同抱擁し合つて後に入る。

第三場 兩陣營間の平原。

王ヘンリー四世、兵をひきぬて出で、通り過ぎる。會戦の軍鼓の音や鬨の聲が聞える。暫くしてドীগラスと王ヘンリーに假装したる士衛ウォルター・プラントとが争ひながら出る。

フラン

汝は何者だ？ 頻りに行手を遮らうとする汝は？ 予の首を得て、どうい

ふ手柄にしようといふのだ?

ドーグ

ちや、名宣つて聞かせよう、自分はドーグラスだ。先刻から汝を附け廻してゐるのは、お前は王だと聞いたからだ。

フラン

其通りだ。

ドーグ

卿スタップフォードは、お前に假装してゐた、めに、高價な支拂をした。彼れは、お前の代りに、此劍の下に、命を終つた。ハーリー王、お前とても然うだ、降服して捕虜とならん以上は。

フラン

降服するやうな人間ではないぞ、無禮者めが。卿スタップフォードの復讐を王がするを見せてくれう。

二人戦ふ。とゞドーグラスはアラントを殺す。

熱 拍車出る。

熱

おゝドーグラス、若しホームドンの戦場で足下が斯ういふ働きをしようも



のなら、わたしは殆ど一蘇國人

をも敗り得なかつたらう。

ドーグ

もう濟んぢまつた。悉く勝だ。

こゝに死んでるのが王だ。

熱

どこに?

ドーグ

こゝに。

熱

(死骸を検して見て)ドーグラス、こ

れかい? いゝや。此顔は善

く知つてゐる。此男は勇敢な

勳爵士だつた。名はブランド

といふのだ。王に假装してゐ

たのだ。

ドーグ

(憤然として死骸を覗んで) 馬鹿ッ、靈魂と一しよに、何處へでも往け！ 王の尊稱を、高過ぎる代價で、借りて来たんだ汝は。何故王だなどと言つたんだ汝はッ？

熱

王は同じ薄上被を、何人にも、鎧の上に着させて、出陣させてゐるのだ。

ドーグ

可し、此劍を掛けて、薄上被の有リッたけを殺してくれう。奴の衣裳室の有リッたけを、一枚々々叩き殺してくれう、眞物にぶつかるまで。

熱

さ、あつちへ往かう！ 身方は立派に戦つて、勝ちさうになつてゐる。

二人ともに入る。軍鼓の音、関の聲。

フォールスタッフ只一人にて出る。

フォール

俺はロンドンぢや例の切りつけ(木片へ切りかたを附け)を悸ともしなかつた勇士だが、此地の切りつけは然うはいかない。こゝぢや直と頭か胴肚かへ切りつけやがるから……(アラントの死骸を見て、びつくりして) おや！ だれ

だ汝は？ あ、士爵ウォルター・ブランドだ……名譽の戦死ですねえ、足

下、全く！ こりや決して虚榮なんかぢやないや！ (切なさうに大息をついて)

おれア溶けた鉛といふ格で、熱くつてく、おまけに、重くつて爲様がねえ。

神さま、どうか鉛(銃彈)はお助け下さい！ 此上重いものが吐へ入つた時

分にや動かれねえから……(又大息をついて) おれが伴れて来た下等兵共は

全然やられッちまつた。百五十人の中で三人とは生きちやアわねえ。其三

人も、場末で一生涯「どうぞや一文」と来てけつかる……(一方を見て) だれ

か来た！

王子ハリー出る、折れた劍を提げて。

王子

(フォールスタッフを見附けて) おや、そこに茫然立つてるのか？ 其劍を貸しな。

大將株が幾人もく、勝誇る敵の蹄の下に、固くなつて横たはつてゐるの

に、また其復讐が出来ない。頼む、其劍を貸してくれ。

フォル

お、ハル公、頼む、少し息をつかせてくれ。あの残酷なグレゴリーだつて、おれが今日やつたやうな酷い人殺しはやらなかつたんだ。パーシーめをやっつけてくれた、もう大丈夫にしちまつたよ。

王子

成程、あの男は大丈夫である、だから今に汝をやっつけるだらう。其劍を貸してくれ。

フォル

いけねえ。パーシーめが生きてるなら、此劍は貸せねえよ。短銃なら貸さう。

王子

それでも可い。……

フォルスタッフ革囊入りの酒壺を取出す。王子見て、

フォル

え、箱に入つてゐるのか？

然。熱いぜ。これをくらはせりやア市府中を血の海へ漂はせつちまふことが出来ら。

王子

王子壺を引出して見て、

何だ、戯けてる時かい、馬鹿ッ！

壺を抛附けておいて入る。

フォル

可し、ハーリーめが生きてやがりやア、すぐとハ、倒してくれ。奴の方からやつてくりやア、然う。が、あつちから来もしねえのに、此方からこのく出掛けて行くやうなら、おれをどんなにでも切りこまじやいてくれ。おれアあの士爵ウォルターのやうな不氣味な名譽は嫌ひだ。命が大切だ。命が助かりや、可し。萬一か助からねえで、名譽の奴めが、欲しがりもしねえのに、やつて来やがるやうだと、さらんばんだ。

入る。

第四場 戦場の他の方面。

騒がしき軍鼓の音、鬨の聲。軍兵の突出。暫くして王、王子、第二王子ランカスターのジョン及びウエストモリアランド出る。

王

こりやく、ハーリー、ま、暫らく引退つてゐなさい。大變に血が出る。

：：おい、ランカスター、お前さんも公爵と一しよに往きなさい。

ランカ

父上、わたくしは御免を蒙ります、手紙を負ひますまでは。

王子

陛下には、どうか此ま、御進軍なさいますやうに、御退却になつては身方が騒ぎませうから。

王

さうしよう。：：ウエストモリアランド卿、彼れを陣營まで伴れてつてやつて下さい。

王子

伴れてつて下さる？ それには及びません。こんな微傷のためにウエール

スの公爵たる者が戦場を退いてたまるものですか？ 此戦場には貴族ら

が血に塗れて、蹂躪られて、横はつてゐます。さうして賊兵は勝誇つて殺

戮を縦まにしておます！

ランカ

もう十分以上に休息しました。さ、さ、ウエストモリアランド卿斯うする

が吾々の本分です。さ、こつちへお出でなさい。

ランカスターとウエストモリアランドと入る。

王子

(其後ろ影を見送つて)ランカスター、わたしは全くお前を見違へてゐた。そ

れほど勇氣があるとは思つてゐなかつた。今までは弟として愛してゐた

が、今日からは自分の靈魂とも思つて、尊敬するよ。

王

予は彼れがパーシーと劍を交へたのを見たが、年少の戦士とは思はれんほ

どの手際であしらつてゐた。

王子

お、子供上りの弟のあの勇氣は、全軍の士氣を鼓舞する。

王子入る。

ドーグラス出る。

ドーグ

(王を見附けて) 又こゝにも王が！ まるで九頭蛟のやうだ。……おれはドーグラスだ、假にもさういふ色の上被を引掛けてゐる者の命は貫つた。足下はだれた、王の姿に似せてゐるが？

王

王自身だ。ドーグラス、足下が幾人もの王の似せ物に出逢ひながら、眞の王に出逢はなんだのを甚だ氣の毒に思ふ。息ら二人は恰ど今パーシーと足下とを捜しに出掛けていつたところだが、求めずしてやつて來たのは幸ひだ、勝負しよう。

ドーグ

足下もまた似せ物ぢやないかと思ふが、實際、態度が王らしくも見える。が、事實、だれであらうと、足下の命はおれが有だ。さ、此通りだ。

二人戦ふ。とゞ

王危くなる。王

子(ウエールス公)又

出る。

王子

やい、蘇國奴、しつかりしろ、これが其首の存否の別れ目だぞ！ シャーラーや

スタッフオードやブランド

ら諸勇士の怨靈が此劍に宿つてゐる。斯う汝を威嚇す自分は、約束すれば必ず果すウエールスの公爵だぞ。

二人戦ふ。とゞドーグラス逃げ入る。

王子、戦ひ疲れて倒れてゐる王を介抱する。





しつかりなさいまし！ 陛下、お気分は？ 士爵ニコラス・ギーシーから  
應援を求めて参りました。それからクリフトンからも。わたくしは直  
様クリフトンを救ひませう。

王

待て。ま、暫らく休みなさい。お前は亡つた信用を回復しましたぞ。

子の危いところを救つてくれたので、さすがに親の命をいたわる心がある  
のが解つた。

王子

お、神！ わたくしが貴下の死を願つてるやうに申したものがあります

なら、そりやあんまりな譏諷です。若し然うなら、勝誇つたドーグラスに  
勝手に貴下を殺させましたでせう。彼れの手は、世界中の毒薬ほどに効

目があつて、貴下の實子に弑逆を行はせる手間を省いてくれたでせう。

王

早くクリフトンの處へ往つてやりなさい。子はニコラス・ギーシーを救  
はう。

王入る。

熱拍車出る。

熱

見違ひでなけりや、足下はハーリー・マンマスだらう。

王子

どうやら、おれがそれを否とでもいふだらうと豫想してゐるやうな言ひ方  
だ。

熱

おれはハーリー・パーシーだ。

王子

ちや、聞及んでゐる叛軍中の勇士だな。おれはウエールスの公爵だ。パ

ーシー、今日以後はもう俺と名譽を分ち得られると思ふな。二つの星が

一つ圓座で動くことは出来ん。一の英國はハーリーとウエールスの公爵

と、二重の支配下に立つことを許さない。

熱

ハーリー、而もそれは今すぐに決るのだ、どつちか、斃れる時が來てるの  
だから。あ、お前の武名が俺のと同格だと可いけれど！

王子

お前に別れる前に、立派な武名を得て見せよう。お前の兜の上の有リったけの名譽の花は、みんな俺が刈取つて此頭の飾りにするから、さう思ひな。そんな自惚を、もう忍耐して聞いちやをらんぞ。

熱

二人戦ふ。

フォールスタッフ 出る。

フォール

(戦ふ二人を見て) ようく、ハル公！ やれく、ハル公！ ……どつこいく。い、かい？ こりや中々子供の遊び事ぢやないや。

ドーグラス又出る。フォールスタッフを見て、一撃を下す。フォールスタッフ驚いて、楯を引冠つて、死んだが如くに倒れる。ドーグラス入る。此間に熱拍車は痛手を負うて倒れる。

熱

お、ハリーリー、おれの青年の名譽は、とうくお前に奪られちまつた！ 脆い命なんか惜かアないが、武名を奪られたのが残念だ。此肉を劍で貫か

王子

れた苦みよりも、心でさう思ふ苦みの方が辛い。が、心は生の奴隷だ、さうして生は時の玩弄物だ。いや、其全世界の過現未を觀測する「時」して奴だつて、つまりは終止になちまふんだ。お、豫言したいこともあるんだが、死の冷い手が、もう此舌の上へ來てやアがる！ ……やい、バーシー、汝は士だ、つまり、その、何の餌食だ…

と言ひかけて息絶える。

(歎息して) 蛆の餌食だよ、な、バーシー。さやうなら、勇敢な、立派なバーシー！ 功名心の織込みやうが間違つてゐたのだ、あ、情けなく縮んぢまつた！ 此肉體に靈魂が宿つてゐた間は、一王國さへも、それを容れるには狭いやうであつたのに、今は此むさい地面たつた二歩分ばかりで澤山だ。死んだ汝を載せてゐる此地上に、又とは生きてた汝ほどの勇士はゐない。汝に意識がありや、こんなに公然に温情を表して、氣をわるくさせようと

は思はんが（と言ひつゝ肩掛を取つて死骸の顔を掩ひながら）汝の傷ついた顔を、ま  
 斯うして隠しておかう、さうして汝の代りに此優待の謝をわたし自身に言  
 ひませう。 さよなら！ 名譽を天まで持つて行きな！ 恥は、すべて汝と  
 共に墓の中で眠つて、決して墓誌なんぞに載せられないやうに！

王子は此時ふと地上のフォールスタッフに目を附ける。

おや、昔馴染だな！ 如

是に肉があつても小さい  
 一命を保つ事が出来な  
 かつたのか？ 可哀さ

うなジャック、さよなら！

もつと優しい人間を亡

しても俺はもつと平氣でゐられたらう。 お、俺は如何なに汝を亡した



のを残念がつたか知れないぞ、若し俺が眞實に馬鹿遊に感溺してわたのな  
 ら。今日の激戦で死の神の箭先にかゝつた死者には幾らも立派な手合が  
 あつたが、圖體の立派なことでは此鹿が一等だ。今に臍を抜かせる事  
 にしよう。それまでは、勇士バーシーの傍に、血に染つた儘で、臥てゐ

入る。

とフォールスタッフ 起上る。

フォル

臍を抜かせる！ 今日やらせるのならねえ、すぐに鹽にしてねえ、明日  
 の朝食つても可いよ！ 畜生め！ 若しあの時死んだ振をしなからうも  
 んなら、死骸の似せ物にならなかつたら、あの蘇國の我武者羅め、おれを  
 無茶苦茶にやつつけやがつたに相違ない。死骸の似せもの？ どつこい、  
 似せ物なことありやしない。死ぬのが似せ物になるのだ。何故って、命  
 のない人間は人間の似せ物だからよ。が、ちよつと死んだ眞似をして、お

庇で生きてるのは、似せ物どころか、立派な、完全な生きたお人間さまだ。勇氣の最上等要素は分別だ。その分別のお庇で俺は助かつたんだ。……

(熱拍車の死骸に躓きさうにして、跳び上つて) 誓言! この破裂弾のバーシーめは

怖いや、死んでゐたつて。や、奴も、或は死んだ振をしてゐるんで、起つかも知れんぞ! 若し然うだと、キツと奴の方が、似せ物としても、強いに違

ひない。だから、大丈夫にしちまつてくれう。さうだ、さうしといて、

おれが殺したといはう。奴だつて、おれと同じに蘇生るかも知れない。

見た者が、以上、おれが殺さないとは言へまい。……ところで、だれも見ちやゐないな。だから、やい、汝(と劍を抜いて死骸を突刺して)斯う汝の股に新しい劍を付けておいて、さ、おれと一しよにござい。

やつとこさと死骸を背負はうとして、よろめき、いろくを  
かしみ。

王子

ランカ

王子

王子

王子

王子

王子

王子

王子、(ウエールスの公爵)及びランカスカター卿ジョン又出る。

おい、弟、お前の今日の初陣の働きは、ほんとに立派だつた。

(フォールスタッフを見附けて) ちよいと! だれでせう、あそこにあるのは?

あの肥つた男は、死んだとおつしやつたぢやありませんか?

然。死んでゐたよ、地上に絶息して、血を流して。……え、生きてゐるのか?

或は目の迷ひか? おい、返辭をしな。聲を聞かないうちは目が

信せられない。よもや見えてる通りの者ぢやあるまい?

い、や、見えてる通りだよ。(死骸を背負つてよろめきながら)斯う見えても俺は

二股の人間ぢやアないよ。たしかにジャック・フォールスタッフだ、が、若し然

うでなきや、その時にや二股武士と言はれても爲方がない。さ、バーシー

だよ。(と死骸を王子らの前へ抛り出して) お父さんの王が俺に賞を與れりやア可

し。若し與れなけりや、此次からは自分でバーシーを殺すが可いや。黙

王子 つて、も、伯爵か公爵にやしてくれるだらう。  
何をいつてるよ、バーシートはおれが殺したんだ、さうして汝の死んでるの  
を見たんだ。

フォル (わざと驚いて) え、お前が? おやく、おやく! どうも呆れた、おそろしい嘘をいつたもんだ! 成程、おれはぶつ倒れて、息を切らしてゐた。奴だつて然うだつた。けれども二人とも直に起上つて、シユリュースベリーの大時計の脇で、長いこと戦つたんだ。それを信じてくれりやア可し、若し信じてくれないやうだと、大勇士の功績を賞しないといふ不公平の越度を當局者が負はにやならんぞ。命がけて誓言するが、此股の創は俺がやつけたのだ。若しか此奴が生きてゐて、然うでないなんぞと吐しやア、誓言! すぶり此劍をお見舞申してくれらるぞ。  
前代未聞の奇異な話です。

ランカ

王子 實に此奴、奇異な奴だよ。:(フォールスタッフに) さ、では、其お荷物を立派に背負つて、従いて來な。其嘘ッばちが汝の利益になりさうだつたら、成るだけ都合の好いやうに、調子を合せてやらう。...

退陣の喇叭聞える。

退陣の喇叭が聞える。勝利は我軍の有だ。さ、弟、戦場の最高處へ往つて、身方のだれが生残り、だれが死んだかを見て來よう。

皆々入る。

フォル (二人残して) どれ、おれもお侶をしよう、褒美頂戴のためだ。神よ、褒美を與へたまへ、おれに褒美をくれる者にはだ! これでおれの名が大きくなると、おれの體は小さくなる、何故なら、うんと下劑をかけて、酒も止め、生活も清淨に改造しようてんだからな、お殿さまらしく。

入る。

第五場 戦場の他の方面。

喇叭。王、ウエールズの公爵、ランカスター卿、ウエストモリアランド及び他の者共、ウーセスターとヴァノンとは捕虜となりて、従いて出る。

王 叛逆は斯う膺懲されるのが常だ。……不心得のウーセスター！ 寛大な、懇切な条件を下下たちへ申し送つたではないか？ 然るに、それを全然反對に傳へて、近親の信任を濫用したのは如何いふ料簡だ？ 今日戦死した我軍の三勳爵士と一伯爵と其他多數の勇士が、今尙生きてゐた譯だ、若し足下が基督信者らしく、兩軍の意志を正しく疎通せしめることに力めたなら。

ウーセ 自分の致したことは自衛上止むを得なかつたことです。で、甘んじて其運命に服します、到底避けがたいものとして此身に下るのですから。ウーセスターを死刑場へ引立てる。ヴァノンをも。他の罪囚は、追つて處分するであらう。

ウーセスターとヴァノン警護されて入る。

其後の戦場の模様は？

王子 壯烈なる蘇人ドーグラスは、戦運の彼れに非にして、バーシートは既に斃れ、其部下もまた悉く逃足になつて參つたのを見ますと、他の敗兵と共に却走に及びましたが、誤つて丘から轉び落ちて、負傷をして、追撃者のために捕へられました。只今わたくしの陣所にをります。彼れの處分は、どうかわたくしにお任せを願ひます。更に差支はない。

王子

ちや弟、ランカスター卿此名譽の恩恵は、お前さんの所有になさい。

ドーグラスの許へ往つて、其放免を言ひ渡して、償金のことは彼れの心任せだと、お傳へなさい。今日吾々に對して彼れの現した高尚な、勇敢な振舞は、假令それが敵の行爲であるにもせよ、深く敬意を表すべきものである。

ランカ

謹んで兄上の御高義を感謝します。仰の通り、早速彼れへ傳へませう。

王

では、もう兵を二つに分けさへすればそれで可い。……ジョンよ、其方とウエストモアランドとは、大急ぎで、ヨオクへ向つてくれ、すなはち、今正に舉兵に忙しいと聞いてゐるノオサンバランドと僧スクローブを邀へ撃つためだ。……予とハーリー、其方とは、ウエールスへ向はう、グレンダワーとマーチ伯とを征伐するため。國內の叛徒は忽ち懾伏してしまふであらう、もう一度今日のやうな目に逢へば。先づ以て好い鹽梅に運んだので

あるから、何もかも此方の有となるまでは、決して手を弛めてはなりませんぞ。

入る。

\* \* \* \* \*

ヘンリー四世 第一部完

大正八年九月十一日印  
大正八年九月十四日發行

(不許複製)

附贈世四一リンへ  
錢拾八圓壹金價正

譯者

東京市牛込區余丁町百十四番地  
坪内雄藏

發行者

東京市小石川區音羽町四丁目十一番地  
荒川信賢

印刷者

東京市牛込區榎町七番地  
渡邊八太郎

發行所

東京市牛込區  
早稻田

早稻田大學出版部

(振替口座東京二二三三番)

→[刷印社會式株刷印清日]←





文藝博士坪内逍遙譯

シェイクスピア傑作集

(第三編)

オセロ

(六版) 三色版口繪入 木版密書多敷入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

沙翁の作三十六篇、其中特に家庭悲劇と稱すべきは此一作あるのみ。而して其脚色、事件、人物の極めて自然にして近代的なる其最大傑作中にも比類あるを見ず。譯者また特に此點に心を注ぎ、譯筆に別様の工夫を凝らし、多く現代語調を加味して譯出したれば流麗にして明快、殆んど一の創作を讀むが如し。而も一字一語をだに苟もせず、一々語を逐うて譯したれば、勢原著に接するの好計釋書はあるべからず。

シェイクスピア傑作集

(第四編)

リヤ王

(四版) 三色版口繪入 木版密書多敷入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

親子間の道徳に對する沙翁の見解は如何。其の暗示を與ふるは此作也。外國には孝を寫せる傑作なし。公卿は盲目にして一朝乞食と零落するの脚色既に雄大、眞狂と戲狂と伴狂と萬乘の老王相會して狂態を露にするの落想眞に天來。沙翁が傑作中の傑作とせし作は是れ。多し日本趣味を帶べざる者。譯者早稲田講堂に於て沙翁の純然たる現代語となし、特にとガキを詳し、今や譯の妥貼を欲して更に筆致を一刷新し、譯語を純然たる現代語となし、特にとガキを詳し、今や譯の親炙するを得ん。原文の純然たる現代語となし、特にとガキを詳し、今や譯の親炙するを得ん。

文藝博士坪内逍遙譯

シェイクスピア傑作集

(第五編)

ジュリアス・シーザ

(六版) 寫眞版口繪入 木版密書多敷入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

沙翁の傑作中政治的興味を中心とせる者は、是れ。千古の英雄シーザが末路の史實を材として波瀾重疊の男性的悲劇を織成せる者は是れ。我國に於ては卅年前、該演奇譚の上梓以來、廣く世に知られ、逍遙博士今や其譯筆を新にして之を純然たる現代語に翻して文藝協會公演の臺本として帝國劇場に上せて非常の喝采を博したり。劇中に於けるブルータス、アントニーの演説は一段の興感を以て玩讀せらる可き也。

シェイクスピア傑作集

(第六編)

エニスの唐人

(四版) 寫眞版口繪入 木版密書多敷入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

劇を口にする者にして沙翁を説かざるはなく沙翁を説く者にして人肉抵當裁判法廷の場を知らざるはあらず。猶太人シャイロック、女裁判官ポオシャの名は全世界の人口に膾炙し、小説生徒も之を知らざるを恥辱とす。而も其原作の完譯は未だあらず、少くとも其膾炙なる悲劇的底調、其輕妙なる滑稽趣味、其幽婉なるホトリ、を共に刺さず提へて雅馴明快始ど今日この創作物と一般なる現代語譯は本譯を以て始とす。巧に虚實の皮膜間を縫ふ沙翁の腕は此譯によりて最も善く窺ふに足る。骨は幾百年前の荒唐なるロマンスなれども、沙翁の腕は此譯は躍々たる肉塊と現じて今尙鮮かに生命を有す。沙翁喜劇の特質を最も善く代表せる傑作物

發行所 早稲田大學出版部

發行所 早稲田大學出版部

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェークスピア  
傑 作 集  
(第七編)

テロペスト

(四版)  
寫真版口繪入  
木版密書多數入  
正價壹圓八拾錢  
郵稅金十錢

大沙翁が最晩年の傑作にして其絶筆と信ぜられたる夢幻詩劇！是れ喜劇？仙話？樂劇？象徴劇？作者が自傳の概要？彼の四大悲劇などとは全く其調を殊にせり。如是絶類の作を含味せずして大沙翁の大沙翁たる所以を知るべからず。本篇には譯者特に讀者の爲に六十餘頁の長論文を添へて其解讀の枝折とせり。

シェークスピア  
傑 作 集  
(第八編)

アムタニタダシオハナテ

(四版)  
三色版口繪入  
木版密書多數入  
正價壹圓八拾錢  
郵稅金十錢

沙翁が偉大なるは其作の獨り出で獨り傑特に、作意の變化して窮らざるに存す。此作は彼れが爛熟期最後の傑作、巧に世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんか熾烈なる肉の戀愛を全うせんかしてふ大デレンマに達着せる英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫し、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出し、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめたるもの。殊に妖女王が性格の描寫は眞に驚異中の驚異、古今空絶。次に全篇に漲れる漢楚軍談風の男性的政治的興味は在來諸戯劇の未だ移植し得ざりし所。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 早 稻 田 牛 京 東

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェークスピア  
傑 作 集  
(第九編)

ト真夏の夜に夢

(參版)  
三色版口繪入  
木版密書多數入  
正價壹圓八拾錢  
郵稅金十錢

大沙翁が多方面なる天才の、空想側面の代表作として眞に醉乎として醉なる者、其姉妹編「テムペスト」に比して更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸、五幕十幾場、其三分の二は悉く幻、想、幻、其調も幻、妖覽類に跳梁して恣に人間を翻弄す人妖錯綜し、極めて自然に、理窟を全脱して條理却て整然、艶情あり、滑稽あり、滑稽あり、悲喜あり、忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色、「オセロー」「マクベス」の作者にして此作ありとは!!!

シェークスピア  
傑 作 集  
(第十編)

マクベス

(五版)  
三色版口繪入  
木版密書多數入  
正價壹圓八拾錢  
郵稅金十錢

ドストイェフスキの「罪と罰」の規模を更に雄大にし更に劇化せる如き名篇にして或は「ハムレット」以上、「オセロー」以上、「リヤ王」以上と稱せらるる、沙翁の傑作。以上拾編、何れも傑作中の傑作。  
本編の附録として譯者の添へたる「日本に於ける沙翁研究、戯譯疏案及び上演の略誌」は、研究の沿革を尋ね、著譯書に就ては其年順書名、著譯者名、發行所名を明にし、其上演に就ては其年月、外題、譯者、俳優、劇場を詳にせるを以て、沙翁研究者の必讀を要す。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 早 稻 田 牛 京 東

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

シェイクスピア  
傑作集

(第十一編)

以尺報尺

(再版)

寫眞版口繪入  
木版插圖多數入  
正價壹圓八十錢  
郵稅金十錢

例の四大名作以下既刊十種の外に更に傑篇十種を選び向ふ二ヶ年を期して譯了刊行の豫定。  
本篇は沙翁が最も皮肉なる喜劇と特稱せらるゝ其悲觀時代の一名作。現實曝露的なる所一  
味シヨ、フリユエらの近代劇と相通す。附録として特に雜句解を添へたり。印刷、挿畫  
裝釘、其他一切前例の通り。

シェイクスピア  
傑作集

(第十二編)

冬夜の志

(再版)

三色版口繪入  
木版插圖多數入  
正價壹圓八十錢  
郵稅金十錢

つい先年英のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技  
巧に成つた作で、今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣  
分の混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を  
味しないうちは沙翁を語る權利がないのである。

發行所 東京 早稲田 早稲田大學出版部

377  
217

終